

農林漁業のうごき

京都府 No.196 令和6年

環境にやさしい 農林水産物を 京都から

デジタル版は
こちら

京都府みどり認定のもと生産された農林水産物の認知度向上と高付加価値化を図るため
「京都府みどり認定ロゴマーク」を作成（関連記事P.5）

内 容

- 特集1 表彰・認定者紹介(農林水産業功労者、農山漁村伝承優秀技能・若手農林漁業者) 2～3
- 特集2 令和6年度補正予算の概要 4
- 特集3 京都府みどり認定ロゴマークを用いた環境負荷低減事業活動のPR 5
- 特集4 ズワイガニの新たなブランド管理を開始 6
- 特集5 京都フードテックエキスポ2024を開催しました！ 6
- 特集6 「京都の林業 魅力丸ごと体験」を開催！ 7
- 特集7 海の仕事を体験！子ども漁業体験が大盛況 7
- 特集8 3泊4日で京都の畜産業を知る 畜産体験ツアーを初開催！ 8
- 特集9 農地の貸し借りは、令和7年4月から、地域の合意をもとにした賃貸に変わります 8

トピックス

京都府農林水産フェスティバル2024を開催！／
家庭でできる、京都ならではの楽しい食育を発信！／
府内初の地域計画が公告されました／
「1738やんたん里づくり会」が“農林水産大臣賞”を受賞／
農林水産業人材確保・育成戦略検討委員会の開催／
京都食ビジネスプラットフォームでプロジェクト支援しています／
「森林の魅力を体感in 京都府立植物園」を開催！／
府内8年ぶりに緑の少年団が結成／
宇川で漁場環境の改善に取り組む活動組織が発足 9～11

- シリーズ 第20回 農林水産技術センターの研究紹介 農林センター／畜産センター 12

地域の取組

京都府南部山城地域で「移住呼びかけ人」が活躍！／
防災重点農業用ため池「ハザードマップ」作成による防災意識向上／
みどりの食料システム戦略の推進に向けて／ツキノワグマから府民を守るための取り組みを推進／
「第8回森の京都ジビエフェア」を開催中！／
宮津市内小学校において特産ヒオウギの花育を実施 13～15

- シリーズ 府内各地の“いちおしの食”を味わおう！「食の京都 TABLE」～第1回 取り組み紹介～ 16

特集
1

農林水産業功労者・農山漁村伝承優秀技 ～令和6年度 京都府農林水

11月30日(土)、京都市伏見区の京都パルスプラザにおいて、京都府農林水産フェスティバル表彰式典を開催しました。この中で、多年にわたり、府内の農林水産業及び農山漁村の振興と発展に功労のあった方々や、農林水産業の経営改善や農山漁村地域の活性化に意欲的に取り組み、地域の担い手として期待される方々に表彰を行いました。また、同時に、農山漁村地域において伝統的に受け継がれてきた生産技能に優れた方々を農・山・海の「匠」として認定しました。

＊ 農林水産業功労者表彰 ＊

(敬称略)

経営改善に取り組み、他の模範となり、農林水産業の振興・発展に顕著な貢献をした方々

上野 信昭／八幡市	鈴木 基司／京丹波町	田中 高昭／京丹後市
福井 ヒデ子／綾部市	藤井 武雄／宇治市	堀内 喜代・眞治／京都市
堀口 博／京丹後市	村上 知行／綾部市	森垣 剛／与謝野町
森田 啓子・権市／京都市	山口 吉広／久御山町	

新品種開発・新事業開拓に取り組み、農林水産業の振興・発展に顕著な貢献をした方々

木下 厚志／京丹後市	小西 康之／京丹後市	築坂 晃／向日市
中井 桂子・貞次／京都市		

女性の地位向上のための活動に取り組み、農林水産業の振興・発展に顕著な貢献をした方々

上田 幸子／久御山町	福知山市農村女性協議会／福知山市
------------	------------------

団体の役員として団体の発展や、農林水産業の振興・発展に顕著な貢献をした方々

石川 裕也／京都市	一瀬 章弘／京都市	出野 桑太郎／綾部市
大志万 忠幸／綾部市	岡田 政行／京丹後市	久保 雅昭／和束町
黒田 幹男／亀岡市	小槻 忠行／南丹市	田宮 正康／京田辺市
田村 義明／長岡京市	藤井 俊一／長岡京市	藤林 英和／京田辺市
矢倉 義昭／亀岡市	吉岡 清志／京丹後市	若山 清史／京都市
和田 泰行／京都市		

農山漁村における地域資源を活用した活動に取り組み、農山漁村の活性化に顕著な貢献をした方々

川見 一郎／南丹市	小嶋 保徳／宮津市	小中 昭／南丹市
松行 輝／福知山市		
株式会社白道路興農会／綾部市	京都府林業研究グループ連絡協議会丹後支部／京丹後市	
農事組合法人竹井宮農組合／南丹市	道の駅「京丹波 味夢の里」農産物等直売所出荷者協議会／京丹波町	

農政課 総務係 TEL：075-414-4947

能・若手農林漁業者が表彰・認定されました 産フェスティバル表彰式典～

＊ 農山漁村伝承優秀技能認定 ＊

(敬称略)

農山漁村地域において伝統的に受け継がれてきた生産技能に優れた方々

【農の匠】

大石 昌轟／舞鶴市 岡本 嘉明／福知山市
平井 賢次／亀岡市 藤村 彌市／京丹後市

【山の匠】

岩本 正弘／京都市 上家 透／宮津市
西川 忠男／京都市

【海の匠】

衣川 務／福知山市

農産課 農業応援伴走支援係 TEL：075－414－4957

＊ 若手農林漁業者表彰 ＊

(敬称略)

農林水産業の経営改善等に取り組み、地域の担い手として期待される方々

大川 雄平／宇治田原町	北川 侑／八幡市	佐原 範靖／宇治市
白波瀬 亘／綾部市	内藤 正仁・美香／南丹市	中川 喬之／亀岡市
中川 剛志／亀岡市	西垣 辰則／京丹後市	西口 正俊／京丹後市
樋口 豪宏／京都市	福田 翔／京丹後市	細川 寛明・沙也香／城陽市
松本 知聡／京丹後市	山崎 俊彦・香葉子／与謝野町	山本 甚太郎・恵子／宇治市
吉田 修也／京都市		

経営支援・担い手育成課 新規就業・人材育成係 TEL：075－414－4912

受賞者からひとこと

農林水産業功労者表彰 小中 昭 様

この度は、栄えある賞をいただき誠にありがとうございます。
この栄誉をいただきましたのもひとえに、関係者の皆様のご支援の賜物と感謝しております。今後とも、豊かな川の魅力を多くの方に伝え、内水面漁業の振興を通じて、京都府の地域振興に取り組んで参りたいと考えております。



受賞者からひとこと

若手農林漁業者表彰 吉田 修也 様

この度は、名誉ある賞をいただきまして誠にありがとうございます。
今回の受賞は地域や関係機関の皆様からの期待であると捉えております。まだ何も成していない自分ではありますが、推薦いただいた方々の思いに添えられるよう今後とも精進いたします。



特集
2

農林水産部 令和6年度補正予算の概要

猛暑による農作物の高温被害や長期化する物価高騰等の影響により、厳しい経営状況にある農林水産業者や食関連事業者等を支援するため、経営力向上に向けた取組への補助、府内産農林水産物・加工品の販売促進に要する経費や、農林水産業の基盤整備に要する経費等として、令和5年度2月と令和6年度9月において、20億3,400万円の補正予算を計上しました。

また、大阪・関西万博に向け、万博来場者の府域への誘客を図るための準備経費として、令和6年度9月補正予算で400万円(債務負担)を計上しました。

令和5年度2月補正予算

〈物価高騰対策〉

■農作物高温対策事業費……………【2億4,000万円】

令和5年度における農産物の高温被害により、府内農家の経営状況が悪化したことを踏まえ、農業改良普及センター等による高温対策に係る技術実証等を実施するとともに、今後の猛暑に備えた高温対策の設備整備を支援

■耕畜連携推進事業費……………【4,500万円】

化学肥料及び配合飼料価格の高止まりにより、耕種農家及び畜産農家の経営が引き続き厳しい状況にあることから、府内産肥料・飼料を安定的に生産・供給可能な体制の確立を支援

■京都フードテック推進事業費……………【3,600万円】

機能性加工食品等の開発拠点整備に向けて、知見を有する人材の育成と拠点の認知度向上のためのセミナー等の開催や、食関連事業者が実施する「京もの」の需要拡大に繋がる取組等を支援

■農林水産分野人材確保総合対策事業費……………【1,900万円】

農業生産組織が新たな担い手に対して行う高収益作物の導入や経営多角化の実務指導、多様な人材の試験的な活用や作業効率向上に係る技術導入を支援

〈基盤整備〉

■農林水産業基盤整備事業費……………【13億2,400万円】

農林水産業の成長産業化を支えるため、農産物処理加工施設等の整備を支援

■有害鳥獣総合対策事業費……………【2億6,000万円】

野生鳥獣に対する侵入防止柵の設置を推進し、持続的な防除体制の整備を支援

■森林経営管理制度市町村支援事業費……………【5,000万円】

航空レーザ測量により得られたデータの解析による高精度な森林資源情報を整備することで、市町村が行う取組に対する支援を強化

■林業「森世紀」創造戦略事業費……………【500万円】

花粉症対策に資する苗木を安定的に生産できる体制の構築に向け、種子採取用の採種園の整備や苗木の広域流通等を支援

■盛土対策総合推進事業費……………【500万円】

「宅地造成及び特定盛土等規制法」に基づき、危険な盛土等を全国一律の基準で包括的に規制するため、規制区域の指定に必要な基礎調査等を実施

令和6年度9月補正予算

〈事業活動を守る対策〉

■耕畜連携推進事業費……………【5,000万円】

化学肥料価格等の高止まりにより、堆肥等の地域資源の活用への関心や需要が高まっていることから、堆肥等の地域資源の購入・運搬・散布支援や簡易機器等の導入を支援

〈大阪・関西万博に向けた準備〉

■きょうとまるごとお茶の博覧会開催費……………【400万円(債務負担)】

万博会期中に、府内のお茶関連のイベントや関西パビリオンでのお茶関連イベント等と連携したスタンプラリーの実施に向けた準備に着手

特集 3

京都府みどり認定ロゴマークを用いた 環境負荷低減事業活動のPR

府内の農林水産業において環境負荷低減事業活動を促進するため、環境負荷低減事業活動実施計画の認定(京都府みどり認定)を行っています。令和6年7月には、同認定のもと生産された農林水産物の認知度向上と高付加価値化を図るため「京都府みどり認定ロゴマーク」を作成しました。

今後も引き続き、環境負荷低減事業活動に取り組む農林漁業者の支援や、環境負荷低減を図る中で生産された農林水産物の販売・消費拡大に向け、消費者団体や実需者と連携して府民の理解促進や需要喚起を図ってまいります。

現在の京都府における環境負荷低減事業活動の取り組み

農業分野では、水稻や黒大豆、小豆、ダイコン、エビイモ、ミズナ、ネギ、タケノコ、トマト、エダマメ、万願寺トウガラシ、ソバ等の多種多様な品目において、化学肥料・化学農薬の使用の低減や土づくりを一体的に行う事業活動が取り組まれています。

また、畜産分野では、採卵鶏において、温室効果ガスの排出量の削減に資する事業活動が取り組まれています。

令和6年10月末現在で個人や法人、団体を含め300名を超える認定者が活動されています。



認定のもと生産された農産物



京都府みどり認定者

京都府みどり認定ロゴマークを用いたPR

「環境にやさしい農林水産業」をイメージに、きょうと食育ネットワーク等からの意見も踏まえてロゴマークを作成しました。京都府みどり認定を受け生産された農産物の販売や活動のPR等にロゴマークが活用されています。



販売の様子

消費者理解の醸成に向けた取り組み

令和7年2月4日(火)に「きょうと食の安心・安全フォーラム」が京都市立京都学・歴彩館で開催されます。その中で、きょうと食いく先生であり京都府みどり認定者である農業者から、食の安心・安全という観点で環境負荷低減に関する取り組みについて事例紹介がありますので、ご興味のある方はぜひお越しください。

※裏表紙にお知らせあり



府内大学での理解醸成の取り組み

特集
4ズワイガニの新たなブランド管理
を開始

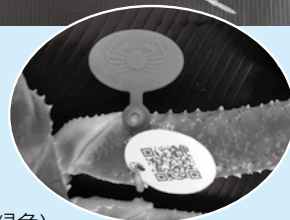
本年4月に発覚したズワイガニの産地偽装を受け、京都府漁業協同組合が主体となり、生産、流通、行政に加え、食品管理の専門家や学識経験者、観光や消費者団体も参画した協議会において、消費者の信頼回復に向けた再発防止策が議論され、新たなブランド管理の仕組みが今夏に取りまとめられました。

具体的には、府内の漁業者によって水揚げされたズワイガニを個体識別するため、従来の産地表示タグに加えて、新たに二次元バーコード入りの通し番号プレートをカニの脚に装着して出荷することとして、今年度の漁期から導入されています。

番号プレートの二次元バーコードを読み込み、漁獲番号を入力することで、水揚げ日や漁船名、水揚げ港といった情報を消費者が直接確認することができる全国でも例のない透明性の高い取り組みとなっています。

この取り組みを契機に、関係者が一丸となって府内の水産物に対する安心感や信頼感を醸成し、ブランド価値の向上に努めてまいります。

雄ズワイガニ

産地表示タグ(緑色)
二次元バーコード付の通し番号プレート(白色)

水産課 漁政企画係 TEL : 075-414-4992

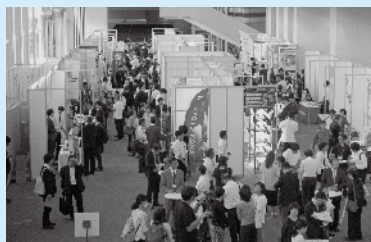
特集
5京都フードテックエキスポ2024を
開催しました！

京都の食文化や京野菜などのブランド食材と最先端技術を融合した「京都ならではのフードテック」の創出につなげるため、企業・大学等による技術・サービスの展示や交流会などを行う「京都フードテックエキスポ2024」を10月3日(木)、4日(金)に開催しました。

企業、大学等の出展ブースは初開催の昨年から約2倍となる38ブースに増え、試食なども交えながら出展者と来場者との間で活発な交流が行われました。

また、「フードテックによる地域の食の課題解決と成長産業化」や「日本発フードテック創出」をテーマとしたメインセッションの他、健康寿命やスマート農林水産業、和食など幅広いテーマによるセミナー、スタートアップによるピッチコンテスト等を開催し、会場は大いに賑わいました。

本イベントを契機に、今後もフードテックへの理解促進を図り、農林水産業を含めた京都の食関連産業の成長産業化を進めてまいります。



企業・大学等による技術展示



多分野の専門家によるディスカッション

流通・ブランド戦略課 フードテック・研究推進係 TEL : 075-414-4969

特集 6

「京都の林業 魅力丸ごと体験」を開催！

林業大学校への就学後、地域の林業事業体への就業とともに定住にまでつながるよう、京丹波町、京丹波森林組合、京都府立林業大学校地域連携協議会及び一般社団法人森の京都地域振興会の協力のもと、7月23日(火)～27日(土)(4泊5日)の日程で「京都の林業 魅力丸ごと体験」を開催しました。

林業大学校での授業や林業体験、さらには、地域住民・林業大学校生との交流会などに全国から計11名の参加がありました。

参加者からは「林業の重要性を再認識した」、「林業大学校への入学や林業への就業を前向きに検討したい」といった声が聞かれました。

今後もこのような体験会や林業の魅力発信等を行いながら、府の林業の担い手確保に向けた取り組みを進めてまいります。



林業体験(立木の伐採)



林業大学校体験入校の様子



地域住民・林業大学校生との交流会

林業振興課 林業経営強化係 TEL：075-414-5019

特集 7

海の仕事を体験！ 子ども漁業体験が大盛況

漁業の魅力を知ってもらうため、小学生とその保護者を対象とした漁業体験を実施しました。

7月25日(木)に舞鶴市で行われたイワガキ養殖体験では、子どもたちは漁師さんの話を聞きながら、実際にイワガキに触れ、そのおいしさを味わいました。参加した子どもたちは、「養殖の仕事って面白い!」「もっと海のことを知りたい!」と、海への興味を深めた様子。保護者の方々からは、「貴重な体験ができてよかった」と好評でした。

10月6日(日)には京丹後市久美浜町で定置網漁業体験も実施し、こちらも大好評。今後も、子どもたちに海の豊かさを実感してもらい、漁業への理解を深める取り組みを進めてまいります。



イワガキの引き上げ作業の見学



殻磨き作業



定置網漁業体験の様子



魚の選別の見学

水産課 漁業漁村係 TEL：075-414-4994

特集 8

3泊4日で京都の畜産業を知る 畜産体験ツアーを初開催！

畜産に興味がある方を対象とした3泊4日の「畜産体験ツアー」を今年度初開催しました。

8月～9月の間に計3回開催し、合計13名(高校生9名、大学生2名、社会人2名)の参加者が府内の肉用牛・乳用牛・養豚・養鶏の農場見学や飼養管理を体験したほか、チーズづくりなどの畜産物加工も体験しました。

参加者からは、「いつか府内で就農したい」「畜産をしたいという思いがさらに強くなった」など非常に前向きな声が聞かれました。

今後も、畜産業の担い手確保を目指し、さらなる理解醸成と魅力発信に取り組んでまいります。



参加者が搾乳体験をしている様子

畜産課 畜産振興係 TEL：075-414-4981

特集 9

農地の貸し借りは、令和7年4月から、 地域の合意をもとにした貸借に変わります

農業経営基盤強化促進法等関連法が改正され、地域の合意(※1)により作成される「地域計画」の実現に向け、令和7年4月1日から、新たに農地を貸借する場合は、農地中間管理機構を介した貸借方法に変わります。(これまでの相対の貸借(※2)は廃止)

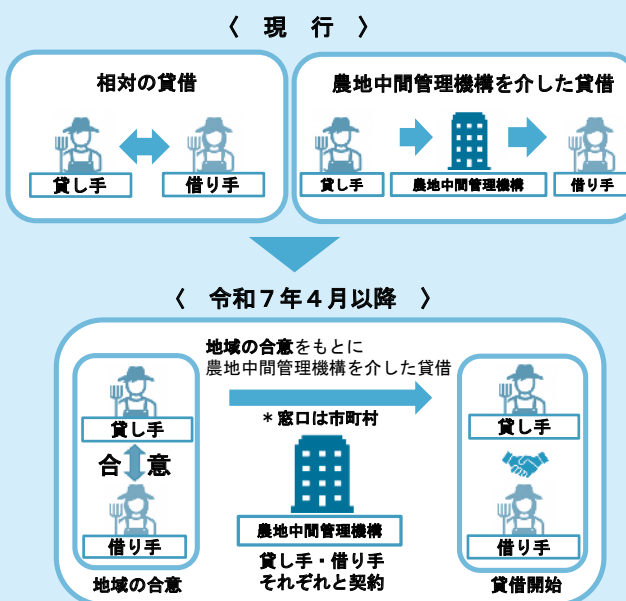
詳しくは、各市町村の農業委員会事務局へお問い合わせください。

※1 地域の合意

地域の話し合いにより、市町村が策定する「地域計画」において、農地一筆ごとに将来、誰が耕作するのかを示した目標地図に沿った貸借。地図は随時更新が可能。

※2 相対の貸借

市町村が作成する農用地利用集積計画による貸借



経営支援・担い手育成課 地域営農推進係 TEL：075-414-4908

トピックス

京都府農林水産フェスティバル2024を開催！

秋の恒例イベント「京都府農林水産フェスティバル」を11月30日(土)、12月1日(日)の2日間開催し、約4万9千人が京都パルスプラザに来場しました。

約100事業者が出展し、府内産農林水産物・加工品等の販売・展示を行いました。例年よりも「体験コーナー」を充実させるとともに、イベントステージで「京まぐろ解体ショー」「都^{みやこ}とんワークショップ」などを初開催したほか、「のともっと MARCHE KYOTO」では石川県の農産物や加工品の販売・PRを実施し、復興を応援しました。

来場者からは「普段見かけない農林水産物を購入できた」「解体ショーは迫力があつた」などの声がありました。



来場者数は過去最高タイでした

流通・ブランド戦略課 ブランド戦略係 TEL：075-414-4941

家庭でできる、京都ならではの楽しい食育を発信！

楽しく食育に取り組むきっかけとなるよう、料理家小平 泰子さんに京都の台所の知恵と工夫が詰まった、家庭で“できる”簡単で美味しいレシピを考案いただき、料理のコツやポイント、生産者の思い、楽しく料理するアイデアを紹介する動画を制作しました。

また、料理家、農業者、大学教授による食育トークショーの収録映像をYouTubeでアーカイブ配信中です。京都の食の魅力や料理の楽しさを、家庭で“できる”ことから、つないでいきませんか。

〔出演者〕 小平 泰子 氏(料理家)
永井 吉幸 氏(農業者／きょうと食いく先生)
小切間 美保 氏(同志社女子大学教授)



◀レシピ動画やトークショーのアーカイブ配信は、京都府HPから視聴できます

農政課 食の安全・食育係 TEL：075-414-5654

府内初の地域計画が公告されました

「地域計画」は、農業経営基盤強化促進法に基づき、地域の農業者や住民等が、将来の農業や農地利用の在り方を話し合い、その結果をもとに、市町村が今年度末までに策定することとなっています。

府内第1号として9月30日付で、府のモデル地区である福知山市中六人部地区の「地域計画」が公告されました。

府では、引き続き、各広域振興局を中心とした「地域計画策定・実現推進チーム」が、市町村や関係機関と連携しながら、「地域計画」を年度末までに策定できるよう、支援してまいります。



地域での話し合いの様子

経営支援・担い手育成課 地域営農推進係 TEL：075-414-4908

トピックス

いちななさんはち

「1738やんたん里づくり会」が“農林水産大臣賞”を受賞

お茶の香りに包まれた宇治田原町湯屋谷。

この地域は、1738年に永谷宗円翁が緑茶の製法を開発し、全国に広めた日本緑茶発祥の地です。

本団体は、町の観光拠点施設である「宗円交流庵やんたん」を活動拠点に、オリジナル茶の販売、新茶まつりの開催、郷土料理「茶汁」の提供、お茶摘み体験、茶畑カフェや地域の観光案内などを通じて、緑茶の魅力を発信しています。

これら様々な活動と地域の皆さんのおもてなしにより、国内だけでなく海外からも多くの観光客が訪れ地域が賑わうなど、地域全体の活性化に寄与していることが高く評価され、「豊かなむらづくり全国表彰事業」において農林水産大臣賞を受賞されました。



◀ 1738
やんたん里づくり会
(平成30年5月設立)



新茶まつり▶

農村振興課 企画管理係 TEL : 075-414-5037

農林水産業人材確保・育成戦略検討委員会の開催

農林水産業・農山漁村を支える担い手の減少・高齢化が深刻化する中、府では、今年度、人材の確保育成に関する新たな戦略の策定を進めています。

戦略の検討に当たっては、農業、林業、水産業の各分野の専門家による「分野別会議」に加え、経営やマーケティングなどの共通分野の有識者による「分野横断会議」を開催し、これらを相互に連動させながら検討を行っています。

各会議でいただいた意見を参考に戦略案を作成し、パブリックコメント(令和6年12月下旬～令和7年1月上旬)を経て、年度内の戦略策定を予定しています。



第1回 分野横断会議の様子

経営支援・担い手育成課 新規就業・人材育成係 TEL : 075-414-4942

京都食ビジネスプラットフォームでプロジェクトを支援しています

設置から4年目となる京都食ビジネスプラットフォームでは、食のアプローチで地域課題を解決する新規プロジェクトの組成と伴走支援に積極的に取り組んでいます。

今年度においては7月19日(金)に全体会を開催し、テーマ別に課題の共有やそれを解決する仮想プロジェクトを話し合いました。

10月4日(金)には京都フードテックエキスポ2024の中でビジネスアイデア提案会を開催し、3つの斬新なプロジェクトが提案されました。アドバイザーから丁寧な助言をいただいたのち、会場参加者との交流も行われました。



ビジネスアイデア提案会にて、アドバイザーから助言をいただきました

流通・ブランド戦略課 食品産業振興係 TEL : 075-414-4954

トピックス

「森林の魅力を感じin京都府立植物園」を開催！

9月28日(土)に京都府立植物園にて、「森林の魅力を感じin京都府立植物園」を開催しました。

森林・林業・木材の魅力伝えるため、府内の関係団体・事業者が集結し、森林の大切さを伝える動画の上映や木工教室、チェーンソーの操作実演、府内産木竹工芸品の展示などを行いました。

約4,000人の方にご来場いただき、木工教室は午前中で定員に達する盛況ぶりでした。

今後も府民の皆さまに森林・林業・木材利用の重要性を一層ご理解いただけるよう、PRに努めてまいります。



イスづくりなどの体験は午前中で定員がいっぱいに



モルックや木ーリングは子供たちに大人気

林業振興課 森林政策・流通係 TEL：075-414-5001

府内8年ぶりに緑の少年団が結成

宇治市立笠取小学校において、「笠取緑の少年団」が結成され、府においては平成28年以来、8年ぶりの少年団結成となりました。

7月19日(金)に同小学校体育館にて登録証交付式が行われ、少年団長、校長先生の挨拶に続き、府山城広域振興局農林商工部長から登録証の交付と激励を行いました。

副団長(6年生)からは、「笠取の森を守るようにしたい」と力強く決意の言葉が述べられました。

参考：府内緑の少年団登録団数22団

(令和6年10月時点)



登録証交付の様子



全団員5名の皆さま

森の保全推進課 モデルフォレスト推進係 TEL：075-414-5005

宇川で漁場環境の改善に取り組む活動組織が発足

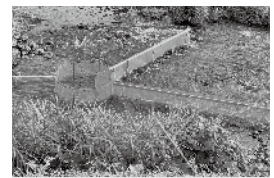
河川資源の維持、生態系の保全のために、令和6年6月から、京丹後市の宇川の漁場を管理する上宇川漁協、野間漁協及び地域住民や学識経験者らで構成する「宇川のアユを増やす会」が活動を開始しています。天然アユの資源量増加を目的に、河川清掃や汲み上げ放流等を行うほか、河川がもつ多様な機能の理解増進を図るため、8月には市内の小学生を対象に、鮎つかみ体験を実施しました。

今後は、来年度のアユの遡上量を増加させるためにアユが産卵しやすい環境作りを実施する予定です。

これらの取り組みを通じて宇川の豊かな資源が将来に引き継がれていくことを期待します。



汲み上げのためにアユを捕まえようとしている様子



汲み上げ放流のためのす建網設置



講習会



鮎つかみ体験

水産課 漁政企画係 TEL：075-414-4992

シリーズ 農林水産技術センターの研究紹介

第20回

農林センター／畜産センター

令和6年度に取り組んでいる
研究をご紹介します

研究1 これまでとは違うネギハモグリバエが発生しています

“絵描き虫”とも呼ばれるハモグリバエ類は、葉の内部を幼虫が食べ歩き筋状の被害を作物に与えます。ところが、ネギ産地で葉全体が白化する被害が平成28年頃から見られるようになりました。調査の結果、従来のネギハモグリバエ(バイオタイプA、以下A)とは遺伝子型が異なり、生理・生態が変化したバイオタイプB(以下B)による被害とわかりました。また、Bが府内全域で優占種となっており、殺虫剤感受性もAとは異なることもわかりました。

そこで、Bに有効な殺虫剤の選定やネギハモグリバエの天敵寄生バチを温存する防除技術の開発に取り組み、これらを防除マニュアルとしてまとめました。Bの発生が確認されたほ場では、本マニュアルの活用により被害抑制が期待できます。



ネギの葉全体が白化し被害が甚大
(バイオタイプBの食害)

農林水産技術センター 農林センター 環境部 TEL：0771-22-6494

研究2 画像解析により簡便に体重を推定できるシステムを開発

肥育牛の発育や健康状態を把握し、適切な飼養管理を行うためには、個体ごとの体重を経時的に把握することが重要です。しかし、従来の体重測定の方法では、多大な労力を要するほか測定機器が高価なことや、作業時に危険が伴うこと等が問題となっていました。

そこで当センターでは、画像解析技術を用いて安価で省力的に肥育牛の体重推定を行うことができるシステムを開発しました。市販資材を用いて作成した装置で牛を撮影することで体重を推定することができ、体重測定時の牛へのストレスも軽減されます。

当センターでは引き続き、より使いやすいシステムとなるよう改良を進めていきます。



装置を用いた撮影の様子

農林水産技術センター 畜産センター 研究・支援部 TEL：0773-47-0301

地域の取組

山城

京都府南部山城地域で「移住呼びかけ人」が活躍！ ～笠置町・和束町・南山城村の「先輩移住者」を認定～

山城広域振興局では、平成27年度から局独自の制度として、相楽東部地域(笠置町、和束町、南山城村)への移住者のうち、農山村地域において移住希望者や新規移住者からの相談に適切な説明及び助言ができる方を「移住呼びかけ人」として認定しています。

(笠置町3名、和束町4名、南山城村4名の計11名)

移住呼びかけ人には、先輩移住者ならではの知識と経験を活かして、移住希望者や新規移住者へのアドバイス、振興局が実施するイベントへの協力など様々な場面でお力添えいただくことで、町村や振興局と一緒に地域を元気にする移住者を呼びこみ、相楽東部の活性化を図っていきたいと考えています。



移住フェアへの参加
(6月 京都)



移住イベントへの参加
(11月 東京)

山城広域振興局 農林商工部 地域づくり振興課 TEL：0774-21-2186

南丹

防災重点農業用ため池の 「ハザードマップ」作成による防災意識向上

南丹地域には、府内で最も多い219の防災重点農業用ため池(下流に民家等が存在する農業用ため池)が存在します。各市町では、廃池予定を除くすべてのため池について、危険の回避や避難意識の向上につながる「ハザードマップ」の作成が進められ、昨年度すべてのマップが完了しました。

「ハザードマップ」の作成にあたっては、ため池に関わる者を中心に、地区でワークショップを開催し、ため池が決壊した際の想定浸水範囲等を確認するとともに避難場所を選定しております。「ハザードマップ」は地域内で配布されるなど、地震・豪雨発生時の避難等に活用されます。



農業用ため池の「ハザードマップ」

南丹広域振興局 農林商工部 地域づくり振興課 TEL：0771-22-0286

南 丹

みどりの食料システム戦略の推進に向けて

府では、みどりの食料システム基本計画を令和5年3月に策定し、化学肥料や化学農薬の使用を慣行レベルから3割以上低減する「環境にやさしい農業(有機農業、特別栽培農産物等)」の取組面積の増加を目標に掲げています。

南丹農業改良普及センターでは、府生物資源研究センターと共同で、土づくりや肥料成分の供給に加え、土壌病害や害虫密度の抑制などに効果が期待できる「緑肥作物」を作付けした環境にやさしい農業の実証ほ場の調査を行っています。

8月に京丹波町内で緑肥を活用した水稻栽培現地研修会を実施したところ、11名の生産者の参加がありました。

来年2月には、収穫後の結果も含め報告会を開催する予定です。今後も当普及センターでは、緑肥作物の普及・定着をめざし、「環境にやさしい農業」に向けた取り組みを進めていきます。



研修会で緑肥活用ほ場を見学

南丹広域振興局 農林商工部 南丹農業改良普及センター TEL：0771-62-0665

南 丹

ツキノワグマから府民を守るための取り組みを推進

南丹地域では、今年、ツキノワグマの目撃情報や捕獲頭数が、例年に比べると倍以上で推移しており、9月には人身被害が発生するなど、ツキノワグマ出没時における関係機関の連携した対策がこれまで以上に重要となっています。

そのため、各市町、猟友会、警察署の担当者が集まり、ツキノワグマの出没対応会議等を開催するなど、関係機関との連携強化に努めています。

今後も継続して、現場でのクマ檻設置及び防災無線・SNSによる住民への注意喚起など、ツキノワグマの出没に備えた対策を行い、府民が安心して暮らせるまちづくりを推進します。



クマ捕獲用の檻



シカやイノシシを捕獲する檻に入ったツキノワグマ

南丹広域振興局 農林商工部 農商工連携・推進課 TEL：0771-22-0133

中丹・南丹

「第8回森の京都ジビエフェア」を開催中！

現在、中丹・南丹広域振興局、森の京都DMOの共催で、「第8回森の京都ジビエフェア」を令和7年2月16日(日)まで開催しています。

中丹エリア、南丹エリア、京都市右京区京北の計60店舗で「森の恵み」のジビエを使った美味しいオリジナルメニューを提供しています。

また、ジビエフェアのアンケートに回答していただいた方の中から抽選でジビエ商品をプレゼントします。

ぜひこの機会にジビエをお楽しみください。



▲
詳しくはこちら



提供メニュー例
鹿もも肉の厚切りカツレツ



提供メニュー例
鹿肉のシチュー

中丹広域振興局 農林商工部 農商工連携・推進課
南丹広域振興局 地域連携・振興部 企画・連携推進課
一般社団法人森の京都地域振興社(森の京都DMO)

TEL : 0773-62-2593
TEL : 0771-24-8430
TEL : 0771-22-9800

丹後

宮津市内小学校において特産ヒオウギの花育を実施

祇園祭で厄除けの花として古くから使用されている「ヒオウギ」は、宮津市が府内唯一の産地ですが、地元であってもヒオウギの存在を知らない人が多いのが現状です。そこで、ヒオウギの産地振興や文化継承につなげるため、地元の小学校において、ヒオウギの花育授業(ヒオウギに関する講義や学校花壇でのヒオウギ苗の植え付け体験)を実施しました。

児童達は、生産者から直接話を聞くことで、ヒオウギの特徴や伝統を学ぶだけでなく、ヒオウギが地元の特産品であることを知ることができました。また、ヒオウギを校内の花壇に植え付けたことから、日常的にヒオウギを観察し、ふれあう環境の場づくりにもつながりました。児童達からは「来年の夏に花が咲くようみんなで水やりをしよう」とヒオウギ栽培への意気込みがうかがえました。

今後も引き続き、宮津市でのヒオウギ産地の拡大や、地元の伝統文化継承に向けて、取り組みを進めていきます。



ヒオウギの
生け花



地元小学校でのヒオウギ花育授業

丹後広域振興局 農林商工部 丹後農業改良普及センター TEL : 0772-62-4308

シリーズ \ 府内各地の“いちおしの食”を味わおう！ 「食の京都TABLE」を紹介します ～第1回 取り組みの紹介～



ドライブや旅行先で、その土地ならではのおいしいものを食べたり、おみやげを買ったりすることを楽しみにしている方は多いのではないのでしょうか。

京都府では、令和2年度から「食の京都」をキーワードに、地域ごとの多様な食材や食文化など、府域の「食の魅力」を生かした観光誘客をすすめています。

特に、地域の観光拠点となる農林水産物直売所や道の駅など、府内各地の23施設を「食の京都TABLE」として選定、PRしています。

「食の京都TABLE」では、新鮮な農畜産物や魚介類、ジビエ、宇治茶など、その地域でとれた旬の食材を使った加工品や料理に加え、その場所でしか体験できない隠れた魅力や周辺のおすすめスポット情報も発信しています。

南北に長い京都府。今までに行ったことがない「食の京都TABLE」を訪ね、各地の「いちおしの食」を味わって、あなただけの「もうひとつの京都」を見つけてみませんか。



食の京都TABLE (府HP)

次号から府内各地の「食の京都TABLE」を順にご紹介します！ お楽しみに！

流通・ブランド戦略課 ブランド戦略係 TEL：075-414-4941



2025年農林業センサス(令和7年2月1日現在)を下記の期間に実施します。

令和6年12月中旬～令和7年2月末 農林業経営体調査
令和7年1月中旬～令和7年2月末 農山村地域調査(市区町村調査)
令和7年10月上旬～令和7年12月末 農山村地域調査(農業集落調査)



農林業センサス

農林業センサス 2025

検索

参加無料

育てよう！京の食の未来

きょうと
食の安心・安全
フォーラム

2025年 **2月4日(火)** 13:30 ▶ 15:30

開催場所 京都学・歴史館(定員：50人)
※オンラインでも参加できます

申込受付 申込受付

詳しくはコチラ

**令和6年度 未来につなぐ
京の木府民会議全体会**

参加無料

府内産木材の利用促進に向けた
講演会や意見交換会のほか、
第8回Woodyコンテストの表彰式を行います！

日時 令和7年1月31日(金)13時～17時
会場 京都府庁旧本館旧議場・3号館講堂
受付 Web申込(1月17日(金)17時締切り)

令和7年度 農大・林大の学生募集 願書受付期間

農業大学校 一般入試(後期)
令和7年1月20日(月)～1月31日(金)
【お問い合わせ】0773-48-0321

林業大学校 一般入試(第3回)
令和7年1月15日(水)～1月29日(水)
※既に定員を満たしている場合は実施しない場合がありますので、
実施の有無については、1月9日以降本校ホームページで御確認ください。
【お問い合わせ】0771-84-2401

京都府の農業や林業の担い手を目指す方の応募をお待ちしています。

発行／令和6年12月

編集／京都市上京区下立売通新町西入敷ノ内町 京都府農林水産部農政課
TEL：075-414-4898 E-mail：nosei@pref.kyoto.lg.jp

*京都府人権啓発イメージソング「世界がひとつの家族のように」は、
「お互い支え合うことの大切さ」をイメージした歌です。
歌い広め、「いま、わたしたちにできること」を考えてみませんか。

公式HPから視聴ができます▶

